

議案 1 号

平成 22 年度事業報告

総括

(所管行政庁等の通常時における指導・評価)

- 1 通常実地指導 7/13 田園倶楽部・訪問看護
西部福祉事務所 指摘事項なし。
- 2 通常実地指導 2/8 グループホームメゾネットたんぼぼ
飯能市 指摘事項なし。
- 3 通常実地指導 2/24 生活サポート事業
飯能市 指摘事項なし。
- 4 他施設でのノロウイルス感染につき、11/9 ぬくもりの館厨房 特別検査実
実施 狭山保健所 指摘事項なし。
- 5 外部評価 5/12
対象 グループホームメゾネットたんぼぼ
評価機関 NPO 法人ケアマネージメントサポートセンター
評価の要旨 「当ホームは、利用者・職員ともに明るく笑顔がたえない。利
用者一人一人をよく観察し、わずかな変化も見逃さない心配りがなさ
れている。特に 1 年後の利用者の変化を見越し、体力、気力を少しで
も維持するよう取り組みを行っている。,,,,,また、地域との交流も盛ん
で、地域に開かれた事業所である。」と高い評価を得ました。
- 6 情報公表調査 22.11/17 実施
対象 居宅支援、通所介護(2 事業所)、訪問介護、認知症対応型通所

調査実施機関 埼玉県介護サービス情報公表センター
調査結果 指摘事項なし。
- 7 指定障害福祉サービス事業所に対する書面指導 22.3/23 実施
指導事項なし。

(新規事業・組織体制・庁舎整備)

- 1 旬菜カフェたんぼぼオープン

23 年 1 月 17 日、飯能市仲町 4-12 にて、営業開始。

人員体制 常勤 3 名、非常勤 1 名

営業時間 月～金 11:00～16:00

金のみ 18:00～22:00

「旬菜カフェたんぼぼ」は、五線譜と種が芽をだしている 8 分音符の看板を掲げ、五線譜は、野菜と人、人と人が集まり、響きあう調和、芽は生命力を

象徴しています。

たんぼぼ自然農園で栽培された無農薬野菜に付加価値を付けて、多彩な料理を、旬の野菜で元気になっていただく料理を提供し、ソーシャルファームとしての事業性を確保していくことを目指しています。

オープンセレモニー1/13・14

沢辺飯能市長、炭谷恩賜財団済生会理事長等関係者多数参加。

1/17 営業開始

2、ぬくもりの館大規模型通所介護Ⅱに移行

ぬくもりの館のご利用者数の増加に伴い、申請を西部福祉事務所に提出し、次年度から月間平均ご利用者数 901 名以上の大規模型通所介護Ⅱに移行することとなりました。

ぬくもりの館は、平成 22 年度に通常規模型事務所（月間平均ご利用者数 750 名以内）から大規模型通所介護Ⅰ（月間平均ご利用者数 900 名以内）へ移行したばかりであります。次年度から、さらに大規模型通所介護Ⅱに移行することとなりました。

大規模型通所介護Ⅱへの移行は、職員の不断の努力の積み重ねによりご利用者の増加ができたものと思います。

3、田園倶楽部定員 30 名に増加変更

ご利用者の増加に伴い、ご利用者の定員算定基準に余裕があることから 25 名から 30 名に定員変更の申請を西部福祉事務所に提出。

4、グループホームメゾネットたんぼぼ、スプリンクラー設備工事完了 2/9

平成 18 年 1 月 8 発生した長崎県大村市のグループホーム「やすらぎの里 さくら館」の火災を契機に、消防法令が改正され、グループホームメゾネットたんぼぼでもスプリンクラー設備を平成 24 年 3 月末日までに設置することが義務付けられました。

この度のスプリンクラー設備工事につきましては、国の助成を得て、飯能市介護福祉課の指導を得ながら、スプリンクラー設備設置に係る業務を進め、工事完了したものです。

スプリンクラー設備は、温度が 72 度になると自動的に消火が行われる設備であり、既に設置済みの自動火災報知設備・通報設備と合わせて、火災の早期発見、初期消火、通報に大きな力を発揮し、より一層安心・安全な施設となりました。

5、ぬくもりの館、外部塗装・ベランダの拡張工事 9/1~11

ぬくもりの館建物建築後 10 年を経過し、外壁モルタルが変色してきたことから外部塗装を全面的に行い、また、1 階ベランダの拡張工事を実施、建物環境を改善しました。

1階ベランダは、1階ホールから続いて、ゆったりとしたオープンスペースが確保できました。

6、法人設立 10周年記念祝賀会開催 6/13

22年総会終了後、マロウドインホテルにて実施

たんぼぼがスタートして 24年

法人格を取得して 11年

介護保険事業所として 10年

①たんぼぼ創生期の市民互助型団体として活動した 10年

②法人格を取得し、専門家集団の介護保険事業所として、地域とともに歩んできた 10年、

たんぼぼが歩んできた 24年を振り返り、市民互助型団体時代に活躍いただいた方々、たんぼぼを支えていただいている多くの関係者とともに記念祝賀会を開催することができました。

(前年度に掲げた重点推進事項の成果)

1、ソーシャルファームの事業性の確保

指導員 3名、障害者・引きこもり 6名、責任者 1名の体制で、業務を推進してきましたが、結果として事業性の確保はできなかった。

しかし、業務を推進していく中で、事業性を確保するための多くの課題が見えてきました。例えば、野菜の品質の確保、土壌の改良、販路の確保、協力支援体制の確保等が挙げられます。

法人内にソーシャルファーム検討委員会を設置し、具体的な意見・提言をいただき、これらの課題に対処していくことが、次年度に課せられた大きな命題であります。

また、旬菜カフェたんぼぼについても前記のとおりたんぼぼソーシャルファームで収穫した野菜を使用し、事業性の確保に大きな役割を担っています。

2 居場所づくり・認知症サポーター養成の継続

前年度に引き続いて、「認知症です。」と言える地域づくりの一環として、気軽に集える居場所づくり、認知症サポーターの養成を継続してきました。

ア、居場所づくりとして、①サビアにここサロンでは、毎月 2 回定期的に開催し、定着しています。参加者は、サビア店に見えた不特定の方々に延べ人員は、110 余名。②田園倶楽部で、パーキンソン病を対象とした家族を含めた方々の集い「すぎなの会」は、6 回、延べ 31 名が参加。

③宮脇書店で、短歌の会では、12 回、延べ 57 名が参加。

イ、認知症サポーター養成として、2月27日、彩の国すこやかプラザにて、シンポジウム「若年性認知症の人のパートナーについて考える」に、若年性認知症社会参加支援センター所長比留間ちづ子氏の基調講演のあと桑山和子会長の事例発表、意見交換を実施。

また、「介護について学びあう家族の会・はんのう」について、次のとおり2回開催しました。

*第1回 9/28 サビア飯能店にて開催

介護についての情報交換、相談・交流を行った。参加者30名

*第2回 1/22 飯能市福祉センターにて開催。

地域社会で暮らしてつづけていくコツ」と題して桑山和子会長の基調講演、参加者のグループ討議、認知症についての学びを実施。参加者57名。

各事業所の事業報告は、別紙のとおり。(省略)

- (1) ケアプランたんぼぼ
- (2) ディサービスぬくもりの館
- (3) ディサービス田園倶楽部
- (4) たんぼぼ訪問介護事業所
- (5) 障害福祉サービス
- (6) グループホームメゾネットたんぼぼ
- (7) 訪問看護ステーションたんぼぼ
- (8) 助け合い事業
- (9) ソーシャルファーム農園
- (10) ソーシャルファーム 旬菜カフェたんぼぼ
- (11) 飯能市ファミリー・サポート・センター
- (12) 飯能市地域包括支援センターあずま町
- (13) 研修事業
- (14) 危機管理対策

議案第 3 号

平成 23 年度事業計画

総括

新たな挑戦と重点継続事項

① 平成 24 年度介護保険改正による新規事業

高齢者住まい法の改正によるサービス付高齢者向け住宅制度や地域包括ケアシステム等の導入に向けて検討。たんぼぼ西隣りの土地 994 m²を購入確保し、上記制度の導入を考慮、合わせて研修センターとしての機能を加えて、さらに地域のコミュニティ的役割を備えた総合建物について検討。

② 上記事業を見据えて法人としての長期・短期目標を設定

③ 訪問看護ステーションの充実

全事業所一丸となって、本年度の重点課題として取り組む。

④ ヘルパー二級養成事業所として申請

厚生労働省の支援事業の一環として、中央職業能力開発協会が行う緊急人材育成支援事業の介護・福祉分野で求められる基本能力習得のために実施する「実践演習コース」に申請。

具体的演習コースとしてヘルパー二級養成コース(9月開講予定)

⑤ ソーシャルファームの事業性の確保に向けて

ア、ソーシャルファーム共力会の新設

販路確保にあたって、野菜の安定供給は必至の条件であることからソーシャルファームを側面から支援していただく、共力会を新設する。支援内容については、野菜の提供、野菜づくりの技術指導、情報提供等を主としたもの。

イ、野菜提供店舗との連携

自家消費、販路先への安定した商品を確保するため、提供店舗との連携を進める。

ウ、新規販路の確保

病院・介護施設関係に新規販路の確保に努める。

⑥ 旬菜カフェたんぼぼの黒字化

23年1/17、営業開始した。現在常勤3名、非常勤1名の人員体制。なお、人員体制を見直し、ソーシャルファームと連携した市民参加事業の開発(グリーンツーリズム、カフェサポーターの養成等)を推進。

月間売上目標 250 万円を目標として、事業の推進継続。

⑦ディサービス事業のさらなる充実

本年度は、ぬくもりの館が月間平均ご利用者数 901 名以上の大規模型通所介護Ⅱに移行し、田園倶楽部の利用者定員が 30 名に増加する体制になりました。合わせて、前年度ぬくもりの館では、外部塗装・ベランダの拡張工事を実施、特に 1 階ベランダは 1 階ホールから続いて、ゆったりとしたオープンスペースが確保でき、建物環境を一層改善いたしました。

法人の運営管理上、両ディサービス事業所の位置付は、益々重要となっています。

これらのことを踏まえ、業務内容の質の向上、両ディサービスを含め他事業所間との連携等が一層期待されています。

⑧東日本大震災を教訓としたリスクマネジメントの見直し

・リスクマネジメント

今回の地震においては、飯能市では幸い大きな被害は、ありませんでしたが、交通機関の運休停止、ガソリンの品薄、計画停電等日常生活に大きな影響を受けました。

飯能市の地域防災環境としては、飯能市に直接関係する活断層として、立川断層、深谷断層があり、想定震度は、震度 6 弱となっている。

また、地域特性として、山間部の関係から風水害による土砂崩れが多く発生しており、昭和 41 年に地元阿須地区でも斜面崩壊による 5 名の犠牲者が発生している。

飯能市地域防災計画によると、ぬくもりの館、田園倶楽部、メゾネットたんぼぼは、福祉避難所に指定されていること等を踏まえ、法人全体として、非常時における危機管理全般について見直しを行う。

・電力節減目標の設定

たんぼぼでは、既にソーラシステムの設置、電気自動車の使用等クリーンエネルギーの採用を図っていますが、今夏季に予想される計画停電を考慮し、たんぼぼ建物全般について、照明の節電、EV の使用制限、建物開口部には、緑のカーテンを設け、室温を下げクーラー使用時間を短縮するなど電力の節電に努めることとしています。

節減目標の設定 マイナス 15%

各事業所の事業計画 各事業所の事業報告は、別紙のとおり。(省略)

- (1) ケアプランたんぼぼ
- (2)ディサービスぬくもりの館
- (3)ディサービス田園倶楽部
- (4)たんぼぼ訪問介護事業所

- (5)障害福祉サービス
- (6)グループホームメゾネットたんぼぼ
- (7)訪問看護ステーションたんぼぼ
- (8)助け合い事業
- (9)ソーシャルファーム農園
- (10) ソーシャルファーム 旬菜カフェたんぼぼ
- (11)飯能市ファミリー・サポート・センター
- (12)飯能市地域包括支援センターあずま町
- (13)研修事業
- (14)危機管理対策